

DV防止対策委員会 活動報告



鹿児島市セーフコミュニティ
DV防止対策委員会

報告者：DV防止対策委員会 委員長 下敷領 須美子
(鹿児島県助産師会会長)



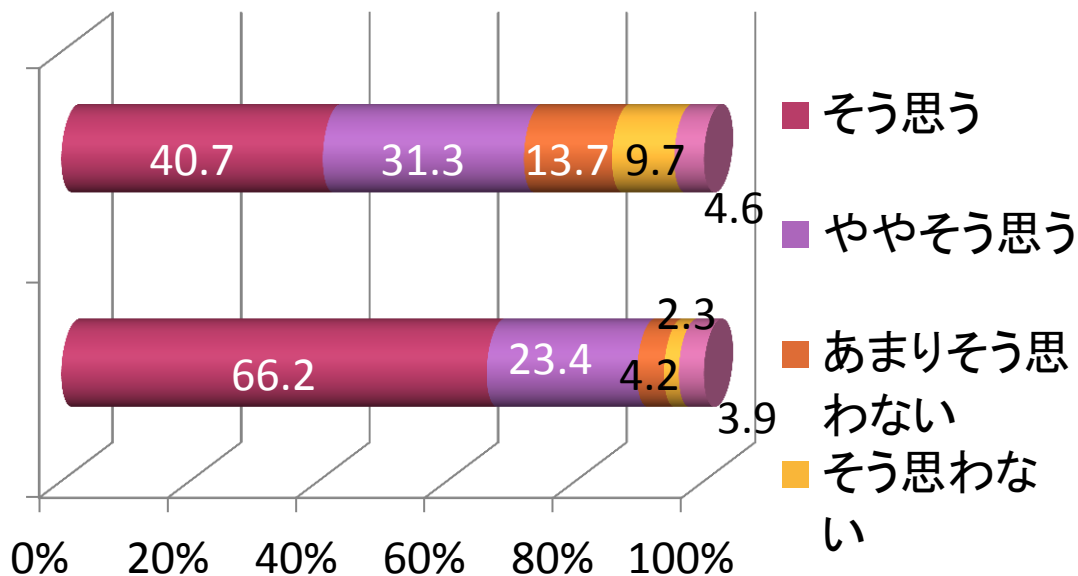
社会的なDV対策の必要性

図1 ドメスティック・バイオレンス(DV)に対する市民意識

N=1,395

暴力は個人的問題ではなく、社会的対策が必要な問題

夫婦間の問題も求めに応じて警察や行政が積極的に関わるべき



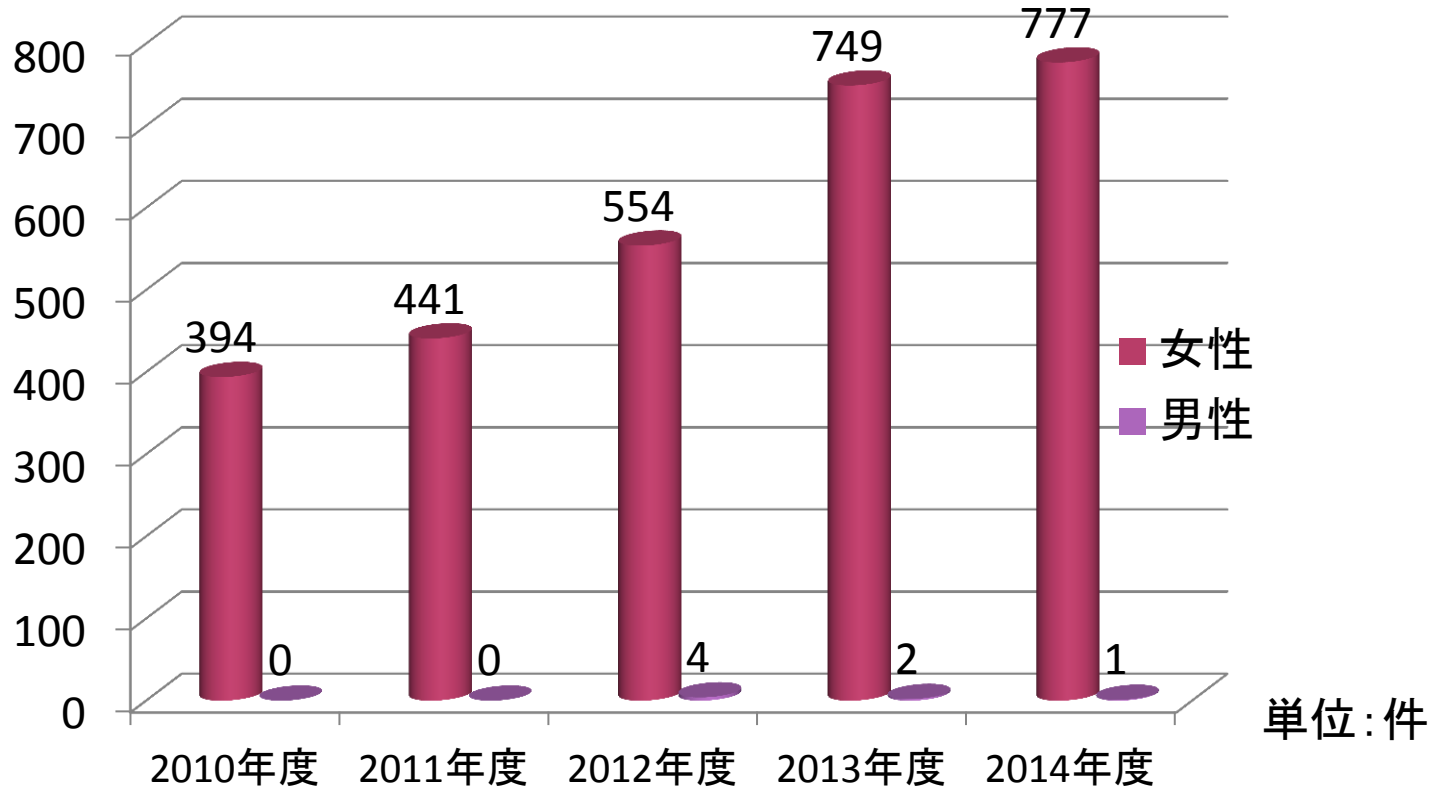
【出典】鹿児島市男女共同参画に関する市民意識調査(市) 【データ】市、両性、20歳以上、2010年度

- ・DVは個人の尊厳を傷つける重大な人権侵害
- ・7割の人が暴力は社会的対策が必要な問題だと認識
- ・DVや被害者保護のための施策の必要性

DV相談件数の増加

図2 DVに関する相談件数実績

※女性相談：常設
男性相談：月1回

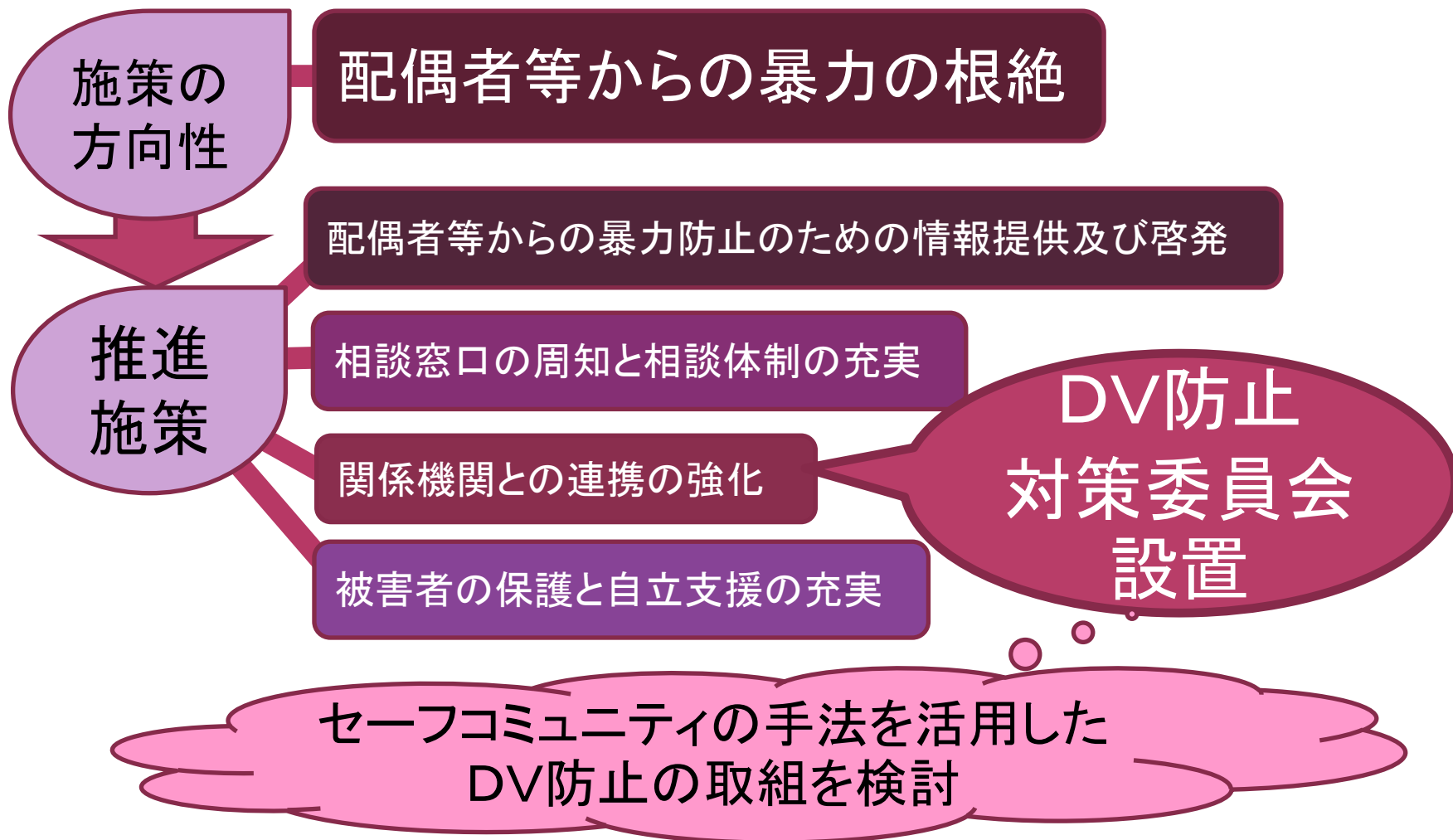


【出典】鹿児島市DV相談件数統計(鹿児島市) 【データ】市、両性、10代以上、2010～2014年度

DVに関する相談は年々増加傾向にある

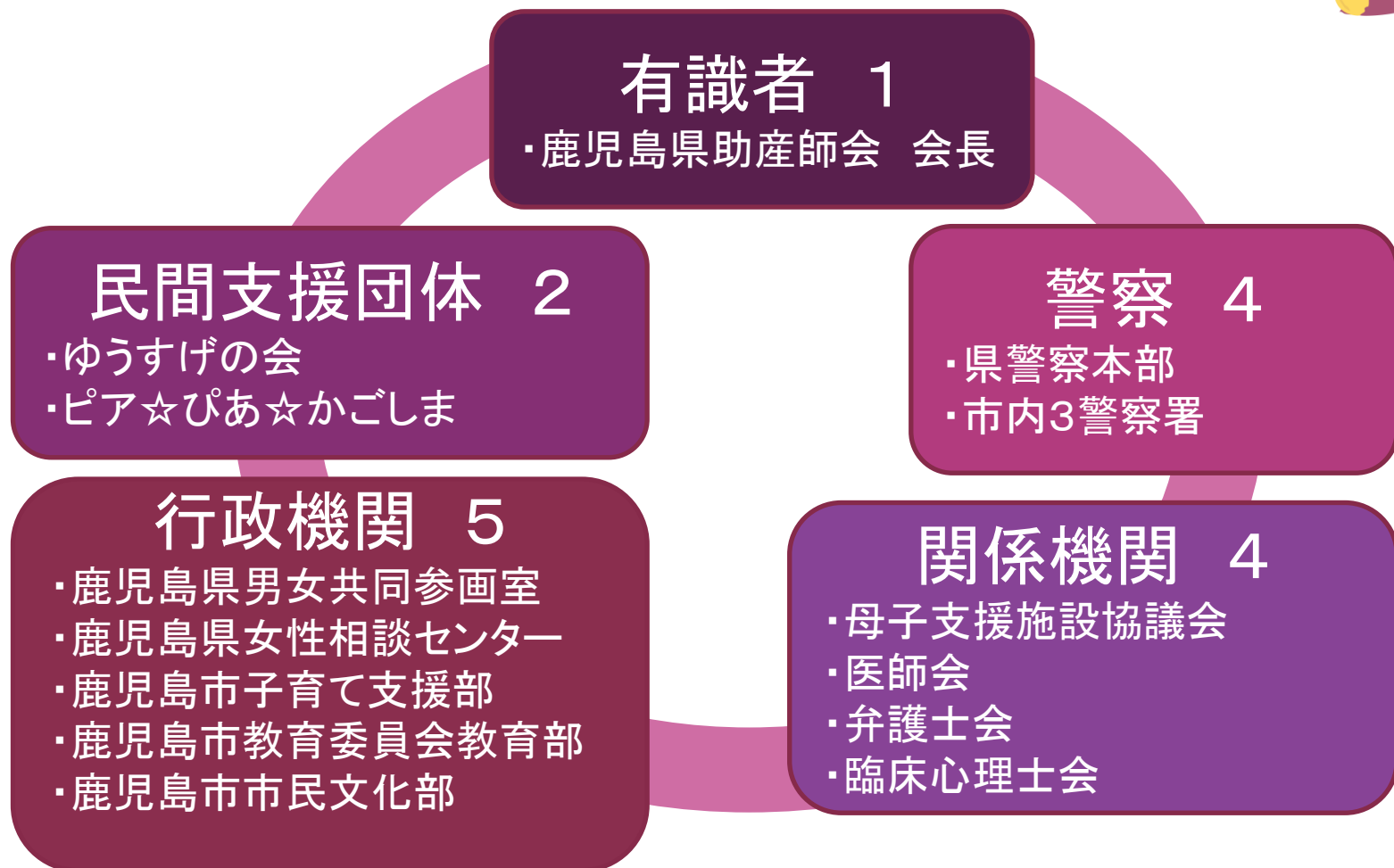
DV防止対策委員会設置の経緯と目的

- 鹿児島市DV対策基本計画(2012年度策定)



DV防止対策委員会の委員構成

対策委員会の構成メンバー（16名）



DV防止対策委員会の経緯

	開催日		検討内容
第1回	2013年	8月16日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ●既存データによる現状把握・分析 ●目的・具体的な目標の検討
第2回		10月22日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ●目的・具体的な目標の検討・決定 ●DV防止に関する取組内容等検討
第3回	2014年	2月21日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ●DV防止に関する対象者・取組内容・実施方法の検討
第4回		5月8日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ●DV対策の現状に関する意見交換 ●プレ現地審査に向けた発表資料検討
第5回		7月17日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ●DV防止に向けた取組内容に関する意見交換 ●プレ現地審査に向けた発表資料検討
第6回		10月1日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ●プレ現地審査に向けた発表リハーサル
第7回		10月23日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ●プレ現地審査発表
第8回	2015年	2月6日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ●DV防止に関する対象者・取組内容・実施方法の検討 ●評価指標の検討
第9回		5月15日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ●DV防止に関する対象者・取組内容・実施方法の検討 ●評価指標の検討
第10回		7月15日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ●現地審査に向けた発表資料検討
第11回		9月2日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ●現地審査に向けた発表リハーサル

DV防止対策委員会の様子

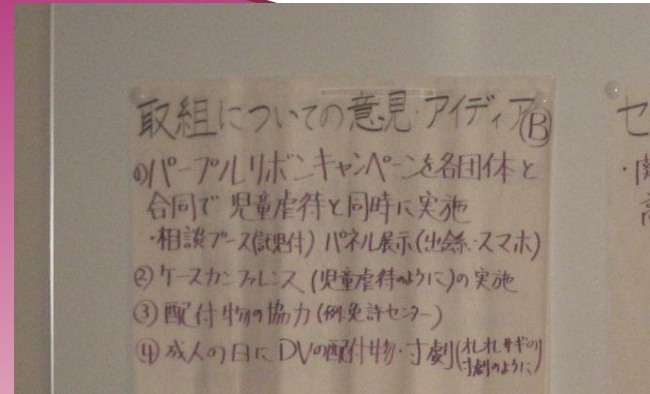
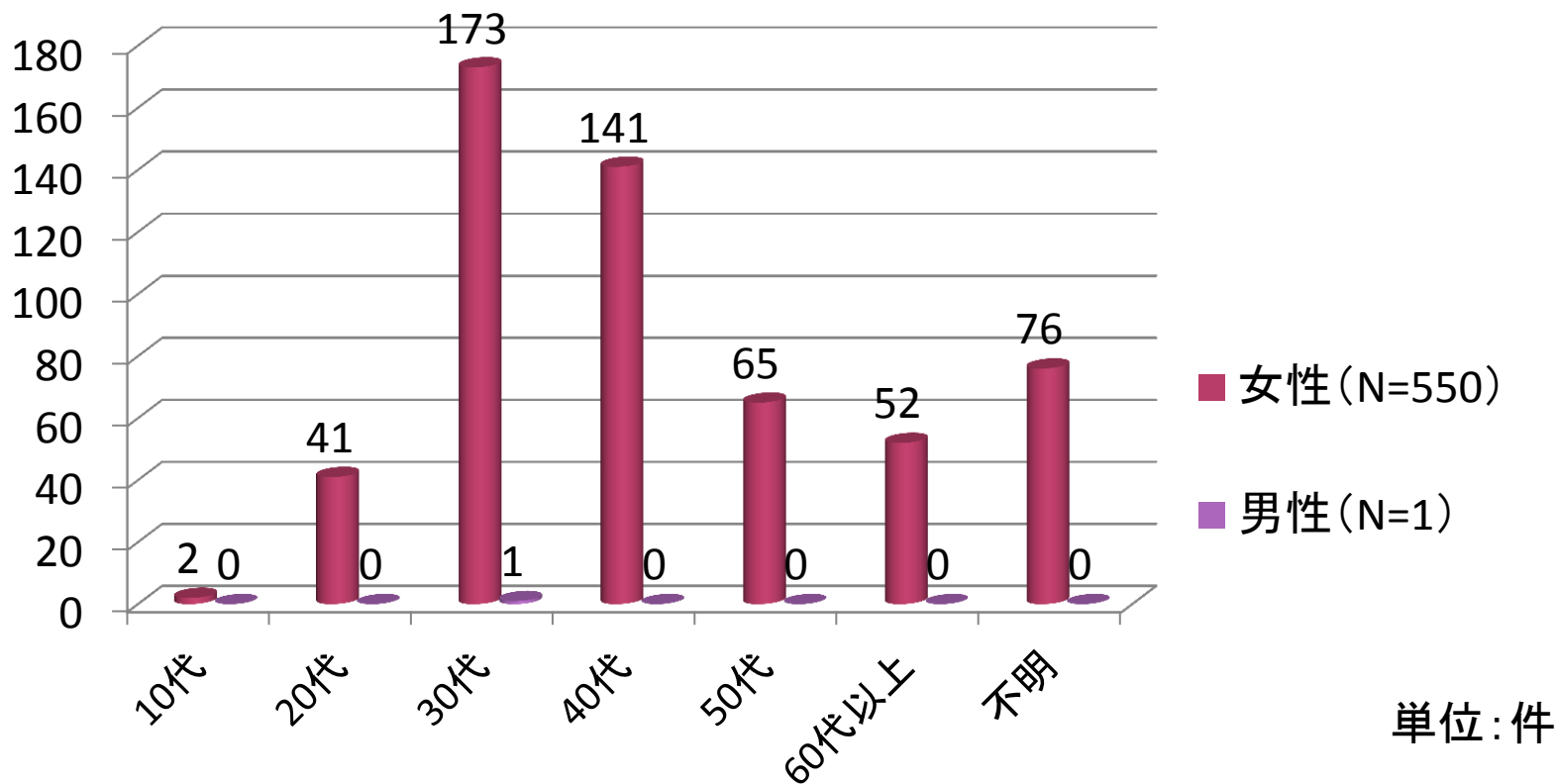


図3 (現状①) サンエールかごしまの 年代別DV等相談件数実績

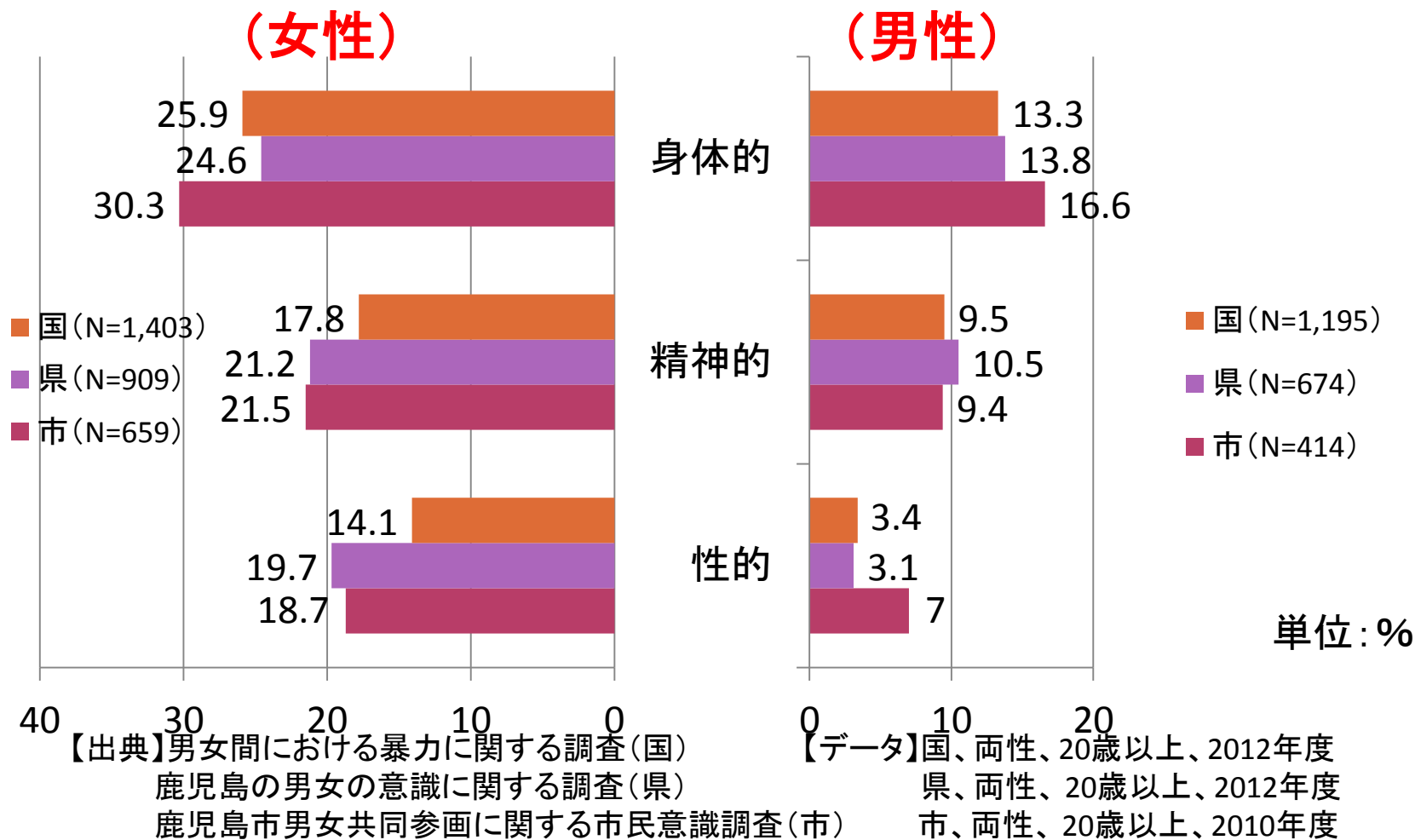
※DV・デートDV以外の13件を含む。



【出典】鹿児島市DV相談件数統計(鹿児島市) 【データ】市、両性、10代以上、2014年度

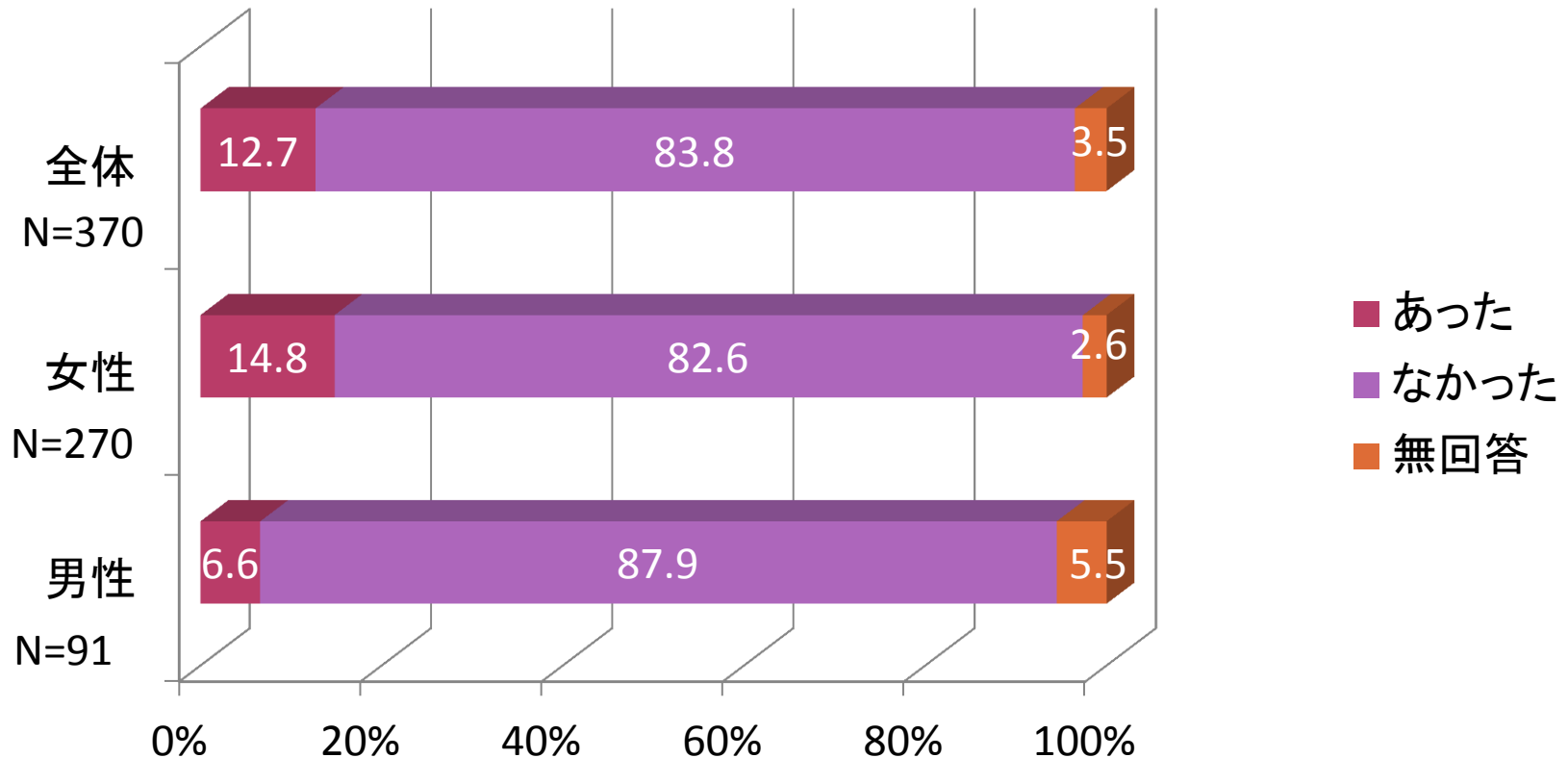
30、40代の相談が多い一方で、10、20代の相談は少ない

図4 (現状②) 配偶者からのDV被害経験 (何度もあった+1・2度あった)



女性のうち3人に1人が身体的暴力を経験するなど
女性の方が男性に比べ被害に遭っている

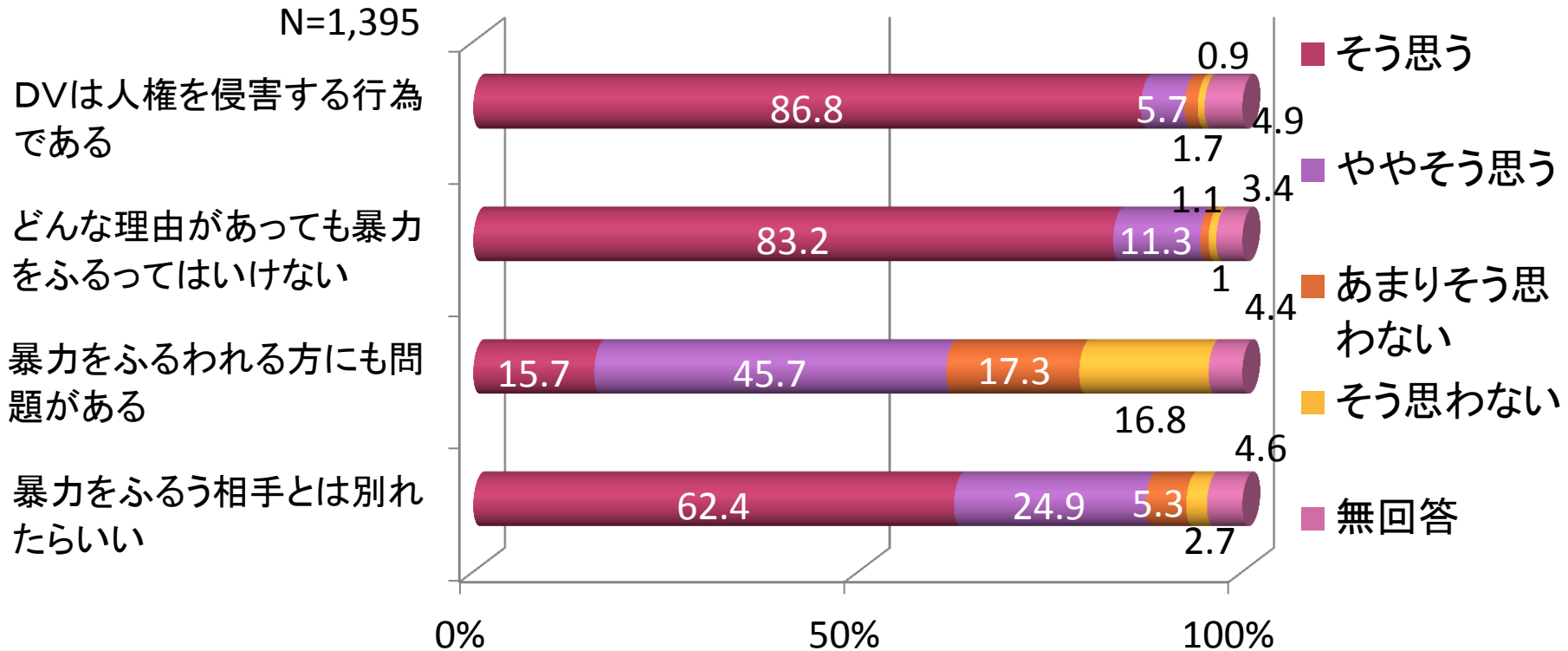
図5（現状③）配偶者からのDVにより 命の危険を感じたことの有無



【出典】鹿児島市男女共同参画に関する市民意識調査(市) 【データ】市、両性、20歳以上、2010年度

女性の約15%が命の危険を感じたことがある

図6 (現状④) ドメスティックバイオレンス (DV) に対する市民意識

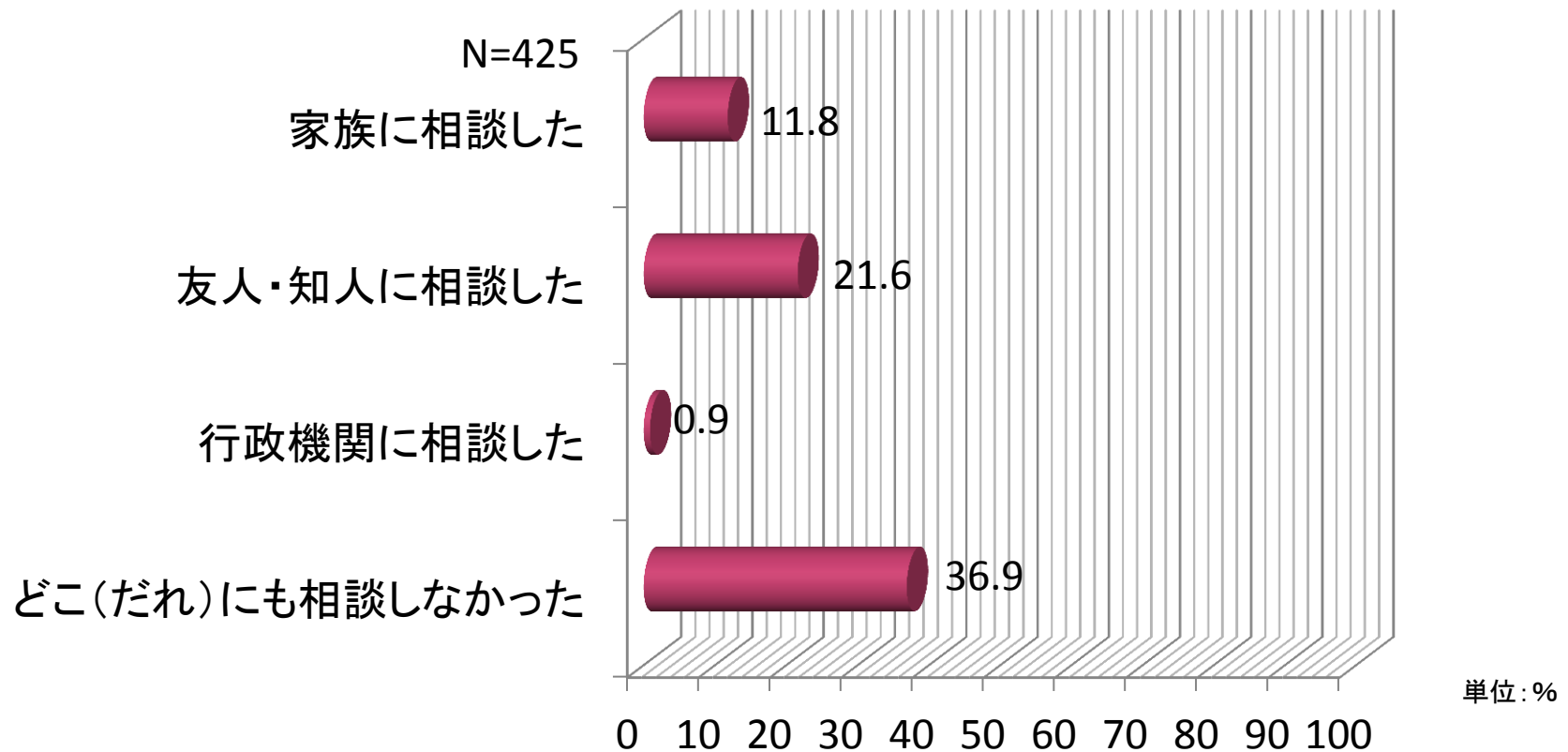


【出典】鹿児島市男女共同参画に関する市民意識調査(市) 【データ】市、両性、20歳以上、2010年度

理由を問わず暴力は認められないと9割の人が認識
6割は暴力をふるわれる方にも問題があると認識

図7 (現状⑤-1) DVにあった際の相談先の有無

※複数回答



【出典】鹿児島市男女共同参画に関する市民意識調査(市) 【データ】市、両性、20歳以上、2010年度

DVにあった際に行政機関に相談した人は約1%
どこ(だれ)にも相談しなかった人が約37%いる

表1 (現状⑤-2)DVにあった際の相談先の有無 (年代別) ※複数回答

N=311

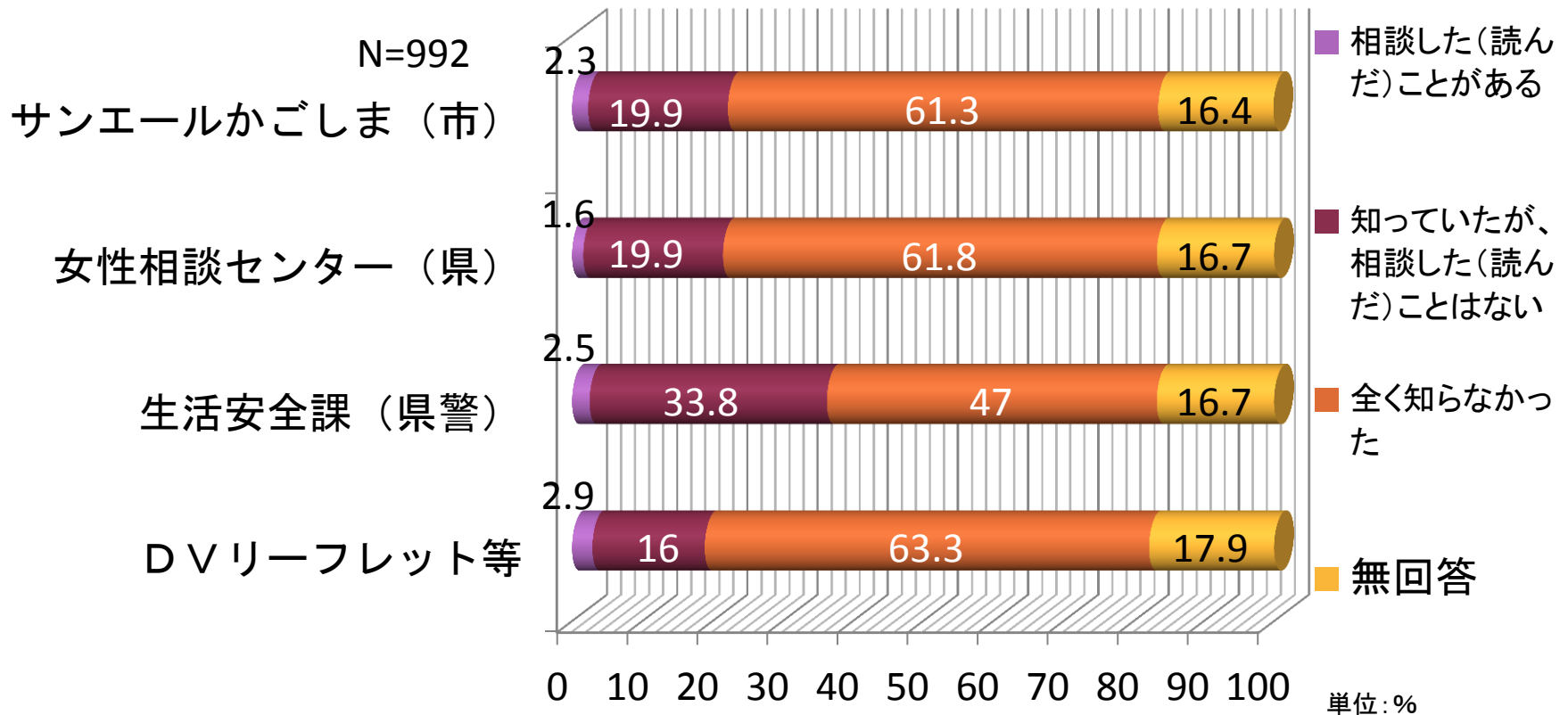
単位：%

	家族に相談した	友人・知人に相談した	行政機関に相談した	どこ(だれ)にも相談しなかった
女性計	14.1	24.4	1.3	34.7
20代	16.0	48.0	0.0	36.0
30代	21.4	50.0	3.6	23.2
40代	19.6	35.3	0.0	41.2
50代	14.7	10.3	0.0	29.4
60代	7.1	11.8	2.4	40.0
70代以上	7.7	3.8	0.0	42.3

【出典】鹿児島市男女共同参画に関する市民意識調査(市) 【データ】市、女性、20歳以上、2010年度

20代で行政機関に相談した人は0%で、どこ(だれ)にも相談しなかった人は36%と多い⇒相談先を知らない、周りから孤立し相談ができない状況が懸念される

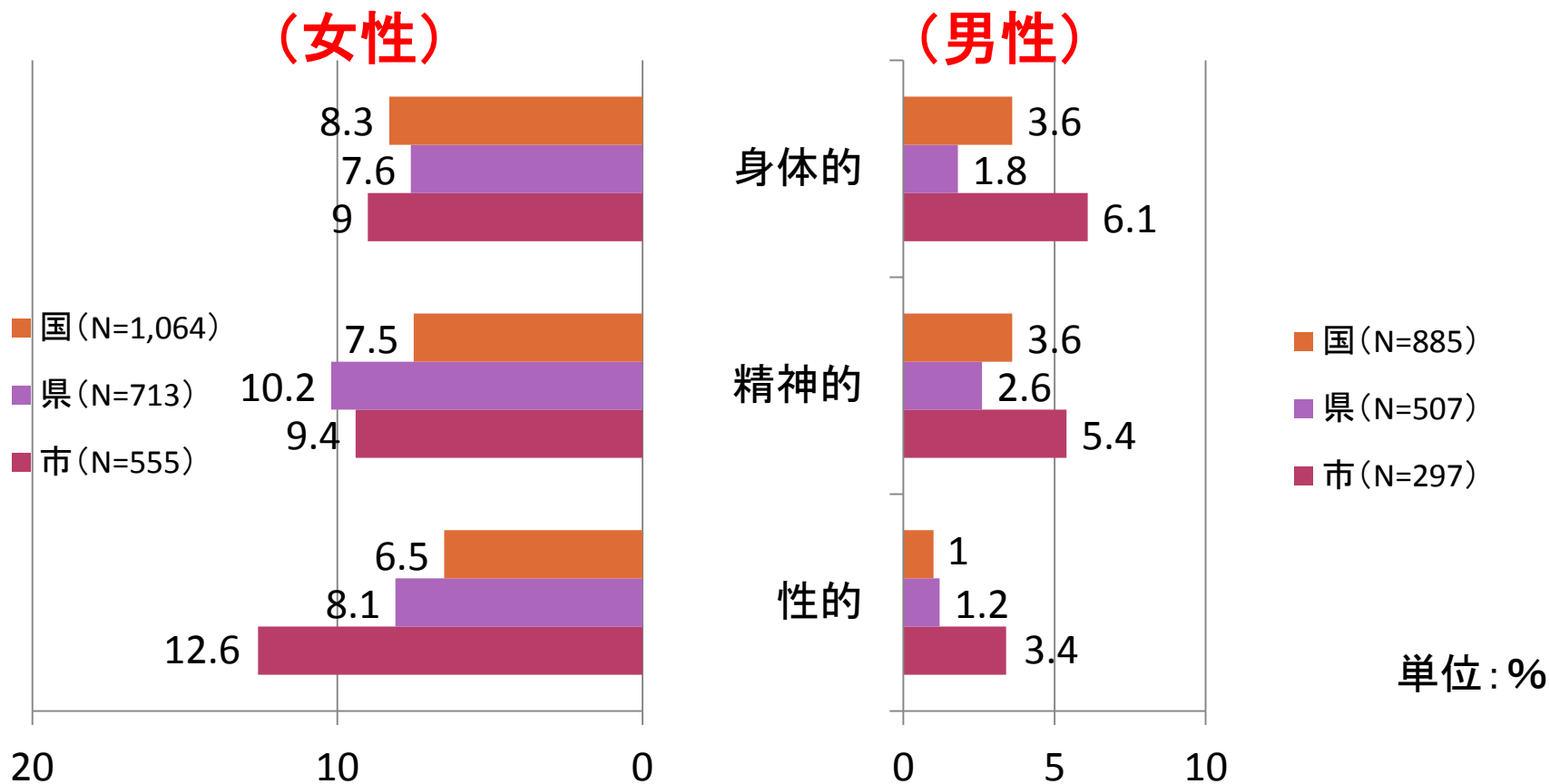
図8 (現状⑥) DVについての相談先やリーフレット等の認知度



【出典】事故やけがに関するアンケート調査(鹿児島市) 【データ】市、両性、16~64歳、2013年度

DVについての相談先やリーフレット等を知らない人が約60%いる

図9 (現状⑦) 10～20代における交際相手からのDV 被害経験(何度もあった+1・2度あった)

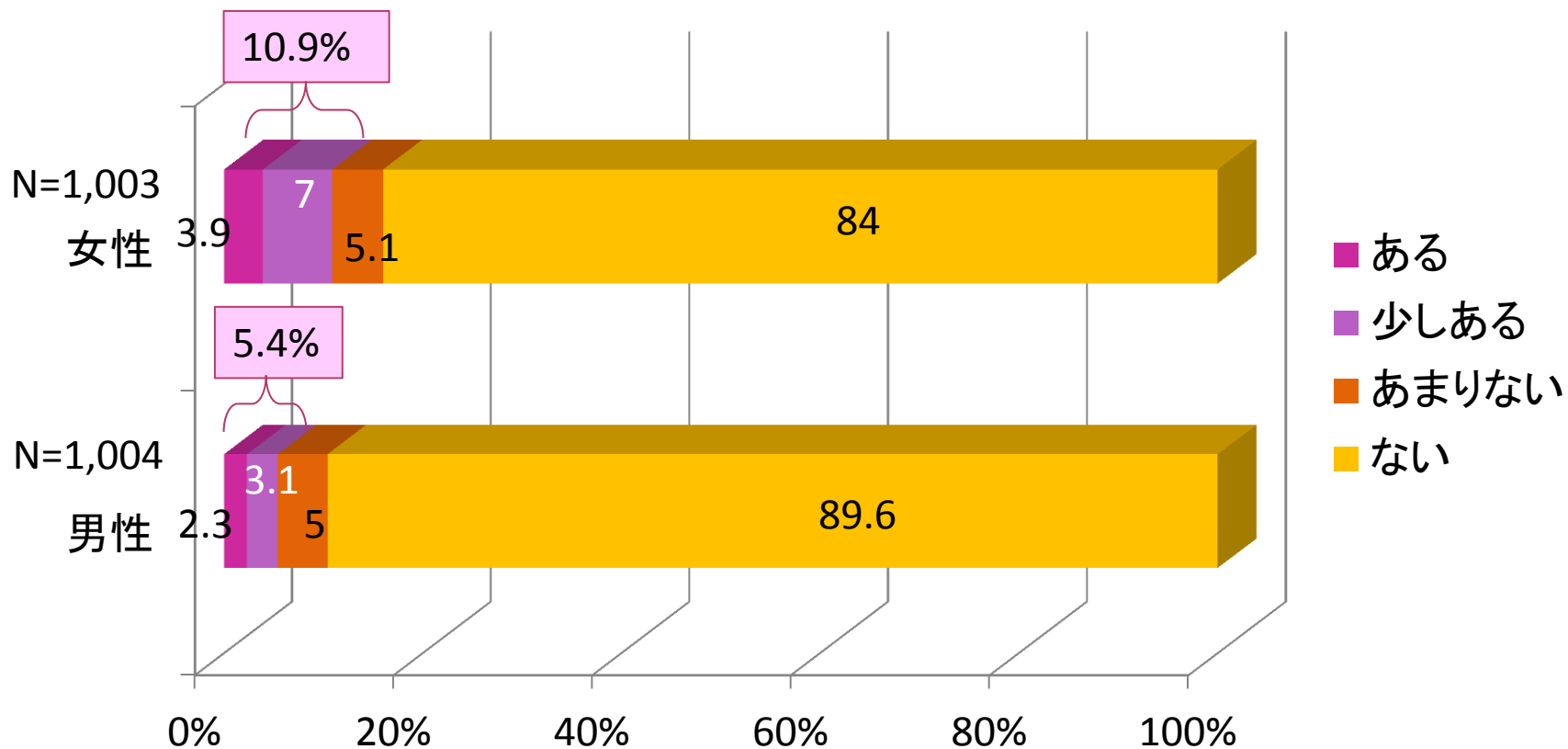


【出典】男女間における暴力に関する調査(国)
鹿兒島の男女の意識に関する調査(県)
鹿兒島市男女共同参画に関する市民意識調査(市)

【データ】国、両性、20歳以上、2012年度
県、両性、20歳以上、2012年度
市、両性、20歳以上、2010年度

**若い世代(本市)では、特に性的暴力の経験が多く、
女性の方が男性に比べ被害に遭っている**

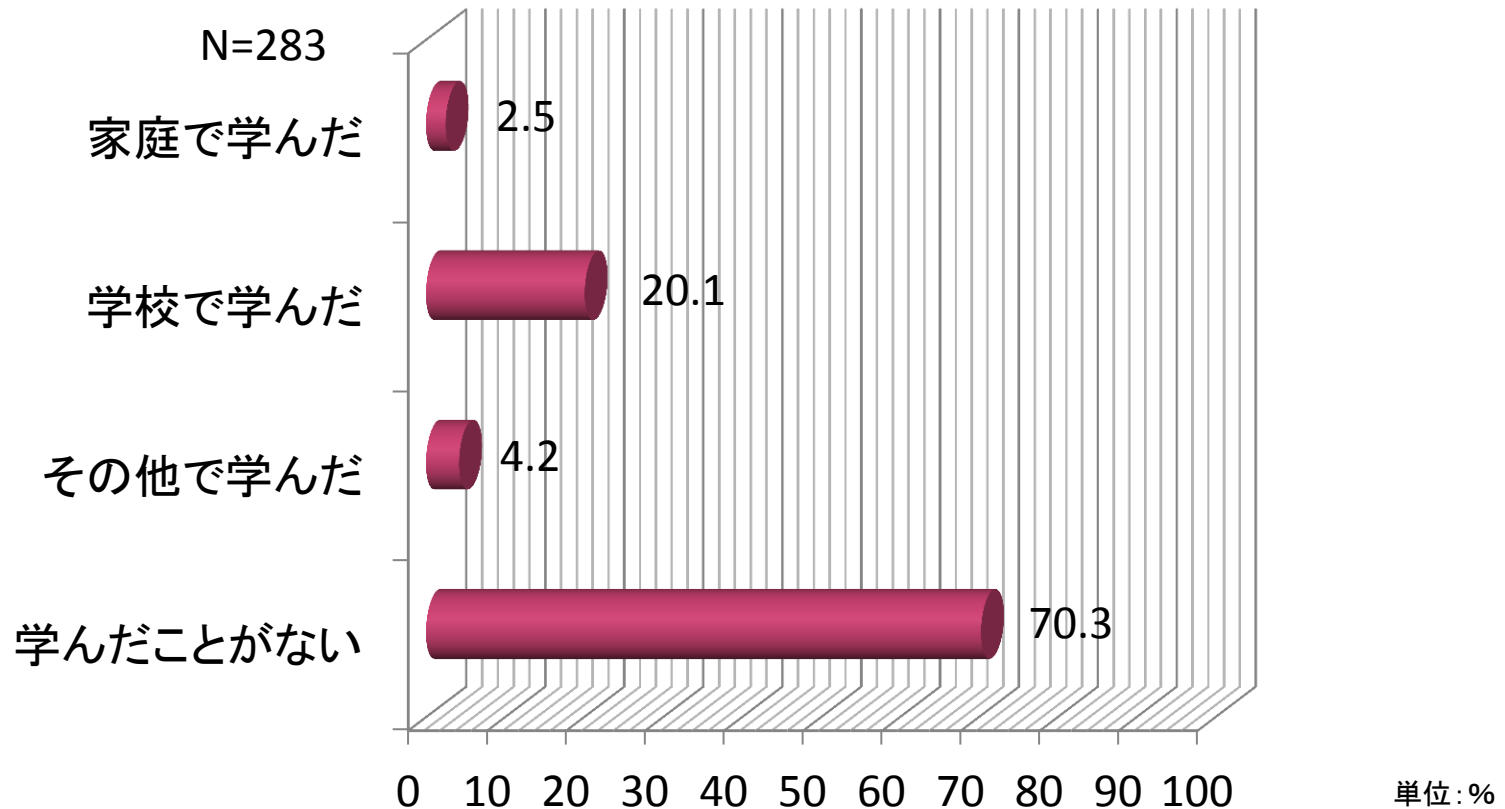
図10(現状⑧) 鹿児島県高校生のデートDV被害体験率



【出典】日本母性衛生学会発表(下敷領須美子他)【データ】両性、県内5校の高校生、2007年度

女子の10人に1人、男子の20人に1人の割合でデートDV被害があった

図11(現状⑨)DVの被害者や加害者にならないための学習経験(中学生)



【出典】事故やけがに関するアンケート調査(鹿児島市)【データ】市、両性、中学生、2013年度

DVやデートDVについて学習した経験のない中学生が約70%いる ⇒ DVに関する知識の不足

対策委員の発言から見えた現状



●DVを取り巻く現状

- DVは潜在化している。今は社会に隠れた被害を掘り起こす時期（医師、弁護士、警察ほか多数の意見あり）
- 行政等の作ったパンフレットの認知度が低い。（臨床心理士、警察の意見）
- DVはいじめや児童虐待、高齢者虐待ともつながっている。他分野との連携も重要（大学准教授、医師、民間支援者の意見）

対策委員の発言から見えた課題



●子どもへの教育

- デートDVは人権教育の中でも、恋愛という親密な関係でおこる特性からの予防教育が必要（大学准教授、医師ほか多数の意見）

●潜在化の防止に向けて

- デートDVでは、親の意識も変えたい。（民間支援者の意見）
- 被害者救済も重要だが、予防を考えると、若者や気付いていない人への啓発が最重要（弁護士の見解）

課題の整理と

解決のための具体的な目標

- 課題1: 男性に比べて女性の方がDV被害にあっており、相談件数は増加傾向にある。⇒現状データ①②③
- 課題2: 誰にも(どこにも)相談しない人が多く、DVへの理解や相談先情報を充実させる必要がある。⇒現状データ④⑤⑥⑨
- 課題3: DVは若者の間でも起きている。⇒現状データ⑦⑧
- 課題4: 中学生に限らず若者の間では、予防学習経験が少ないと考えられる。⇒現状データ⑨

目的: DVの防止

課題1・課題2

⇒具体的な目標1: DVの正しい理解と気づきの促進

課題2・課題3・課題4

⇒具体的な目標2: 若年者に対する予防啓発の充実

具体的な目標達成のための取組

具体的な目標1：DVの正しい理解と気づきの促進

- 取組① DV防止のための情報提供及び啓発（市民全般向け）
- 取組② 相談員の資質向上



具体的目標2：若年者に対する予防啓発の充実

- 取組③
 - ・DV防止のための情報提供及び啓発（生徒・学生向け）
 - ・若者による若者のための暴力未然防止活動
- 取組④ DV防止のための情報提供及び啓発（10～20代社会人向け）

DV防止の取組の全体像

※ 下線部はハード面の取組

- 国・県**
- 法律の制定** ・配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律 など
 - 計画の策定** ・鹿児島県配偶者等からの暴力の防止及び被害者支援計画 など
 - 具体的取組** ・「女性に対する暴力をなくす運動」期間中の取組、一時的な保護施設や母子生活支援施設の設置 など

市



DV対策基本計画

- ・配偶者暴力相談支援センターの設置
- ・DV等の被害者に係る住民票の写しなどの交付制限
- ・DV被害者の市営住宅入居の優遇措置 など

地域

- ・配偶者からの暴力を発見した市民等による警察等に通報する努力義務 など

各種団体

- ・医師その他の医療関係機関による警察への通報(※被害者の意思の尊重が必要)
- ・女性の権利110番(弁護士会) など

- ・デートDV講演会の開催
- ・DV防止啓発誌の配布
- ・カードサイズDVリーフレットの配布
- ・男女共同参画センター相談事業
- ・関係機関相談員研修
- ・意見交換会開催
- ・デートDV講演会の規模拡大
- ・デートDVピアエデュケーションの開催
- ・パープルリボンキャンペーンへの協力
- ・民間支援団体による相談 など

DV防止対策委員会

本市の取組の全体イメージ

年代	カテゴリー	主な人との関わり	相談状況	被害経験	特徴	対応する取組
10	生徒・学生	先生・友人・ 交際相手・ 家族	少	10人に 1人	<ul style="list-style-type: none"> ・交際経験の増加 ・DV知識の不足 ・相談先を知らない人が多い 	ハイリスク集団 ⇒この年代から予防することで、将来の30代・40代の被害を予防できる。⇒ 取組①・②に加え、取組③・④で重点カバー
		同僚・友人・ 交際相手・ 家族				
20	社会人	同僚・友人・ 交際相手・ 家族	最多	3人に1人	<ul style="list-style-type: none"> ・1人暮らしや同棲の増加 ・交際経験の増加 ・相談先を知らない人が多い 	取組①・②でカバー
30	社会人 (労働者・専業主婦等)	同僚・友人・ 子ども・地 域	多			
40			多			
50			多			
60以上	社会人 (退職者等)	友人・地域	中			

取組1・2

- ・市民全体の予防を図る。

取組3・4

- ・将来の加害者・被害者になる前にハイリスク集団に予防教育

DVの防止

- ・早期予防により、DVの加害者も被害者もつくりたくない社会を目指す。

現在行っている啓発の取組例

若者をターゲットにした啓発例

- ①デートDV講演会開催(市)
 - ②デートDV防止お届けセミナー開催(県)
 - ③デートDV防止啓発誌発行・配布(県・市)
- ※講演会の開催や啓発誌の配布には、学校の協力をいただいています。

一般向けの啓発例

- ①女性に対する暴力をなくす運動(県・市)
 - ②女性に対する暴力に関する講演会開催(市)
 - ③パープルリボンキャンペーンの実施(県・市)
 - ④カードサイズDVリーフレット、相談窓口カードの作成、配布(県・市)
 - ⑤男女共同参画情報誌の発行
- ※県のパープルリボンキャンペーンでは民間団体の協力、カードサイズDVリーフレットの配布では医師会や金融機関、美容室などの協力をいただいています。

現在行っている啓発の取組例



カードサイズDVリーフレットの配布



パープルリボンキャンペーン
などなど...



県・市が作成しているデートDV防止啓発誌の配布

取組①及び④：DV防止のための情報提供及び啓発 (市民全般・10～20歳代の社会人)

具体的な目標	I DVの正しい理解と気づきの促進 II 若年者に対する予防啓発の充実
対象者	I DV被害者・加害者を含めた市民全般 II 10～20歳代の社会人
具体的な内容	カードサイズDVリーフレットの配布・設置や パープルリボンキャンペーンの実施など (その他の啓発活動はP24に掲載)



- ・現在、DVの被害者・加害者である人が、自分が被害者・加害者であることにキヅき、キヅつかないための取組
- ・学校卒業後、学習機会の少なくなる10～20代の社会人が、被害者にも加害者にもならないための取組

OSC導入による改善：パープルリボンキャンペーン期間中の街頭啓発活動の参加団体の増加

取組②：相談員の資質向上

具体的な目標	DVの正しい理解と気づきの促進
対象者	DV被害者支援に携わる者
内容	①DV被害者支援啓発講座の開催 ②県・市町村のDV担当課長等研修会、DVに係る相談業務研修会、暴力被害者支援セミナー、婦人保護業務に係る相談員及び担当係長研修会、コーディネーター研修 ③支援関係者向けリーフレット作成・配布

相談員が学ぶ機会を設け、傾聴の技術や二次被害防止を含めた研修を行っている

⇒相談体制が充実することで、被害者が安心して相談することができる

○新たな取組：

「相談員の自己評価」と「来談者の相談満足度」を把握するアンケートを実施予定(2016年度)

取組③ー1：DV防止のための 情報提供及び啓発（生徒・学生）

デートDV講演会の開催枠拡大

- 対象：市内の中学、高校、大学、短期大学、
専門学校に通う生徒・学生
- 効果：・より多くの生徒・学生に学習の機会を
提供できる。
・知ることでDVに遭う前に気付くことができる。



※受講生の理解度：受講前54%⇒受講後97%
（講演会実施後のアンケート結果による）

○新たな取組：開催枠12⇒20校に拡大（2014年度）

○実施状況：2013年度：3,280人⇒2014年度：5,057人

2014年度：12校⇒2015年度：17校



取組③-2: 若者による若者のための 暴力未然防止活動

学生発信の予防教育実施

○対象: 市内の中学、高校、大学、短期
大学、専門学校に通う生徒・学生

○内容: 鹿児島大学のサークル

「ピア☆ぴあ☆かごしま」による

ピアカウンセリングやピアサポーター養成講座を実施



○効果: ・ワークショップをしながら、双方向の意見交換ができる

・同じ学生同士(ピア)だから、より身近な思いを共有し、気付くことができる



○新たな取組: 2015年度～鹿児島市立中学校(1校)に
出前ピアエデュケーション(※2015.10現在)



取組の評価①

凡例 ①指標名 ②確認方法 ③確認の対象

取組	活動指標	実績
<p>DV防止のための情報提供及び啓発(DVの被害者・加害者を含めた市民全般向け)</p>	<p>啓発配布物の配布数</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市民のひろばへのDV防止啓発記事掲載:全世帯(約26万世帯) ・カードサイズDVリーフレットの設置箇所:1,523施設(2013年度) ・パープルリボンキャンペーン街頭啓発活動:1000枚配布(2014年度)
成果指標(短期)	成果指標(中期)	成果指標(長期)
<ul style="list-style-type: none"> ①DVに対する市民の認識の変化 ②・事故やけがに関するアンケート調査 <ul style="list-style-type: none"> ・女性に対する暴力に関する講演会のアンケート ③市民全般 	<ul style="list-style-type: none"> ①DV相談件数の増 ②DV相談統計(市・県・警察等市内の相談窓口) ③DV相談者 	<ul style="list-style-type: none"> ①DVは人権を侵害する行為であるという考えの浸透 ②男女共同参画に関する市民意識調査 ③調査対象者に抽出された市民

取組の評価②



凡例 ①指標名 ②確認方法 ③確認の対象

取組	活動指標	実績
<p>相談員の資質向上</p>	<p>相談員を対象とする研修会の実施回数及び参加者数</p>	<p>・研修会 計8回(市:2回、県:6回) (2014年度)</p>
成果指標(短期)	成果指標(中期)	成果指標(長期)
<p>①相談員のスキルアップに対する認識の変化 ②アンケート ③市内相談機関相談員</p>	<p>①相談員のスキルアップに向けた行動の変化 ②アンケート ③市内相談機関相談員</p>	<p>①・スキルが向上したと自己評価した相談員の割合 ・来談者の相談満足度 ②アンケート ③・市内相談機関相談員 ・市内相談機関に相談をした来談者</p>

取組の評価③

凡例 ①指標名 ②確認方法 ③確認の対象

取組	活動指標	実績
<p>DV防止のための情報提供及び啓発、若者による若者のための暴力未然防止活動</p>	<p>デートDV講演会等の実施校数、対象生徒・学生数</p>	<p>・デートDV講演会： 12校、5,057人(2014年度) ・ピア☆ぴあ☆デートDVピアエデュケーション： 3校(2014年度)</p>
成果指標(短期)	成果指標(中期)	成果指標(長期)
<p>①DVに対する生徒・学生、教職員の認識の変化 ②デートDV講演会等のアンケート ③講演会等を受講した生徒・学生</p>	<p>①DVに対する生徒・学生の態度や行動の変化 ②事故やけがに関するアンケート調査 ③調査対象者に抽出された市民(生徒・学生)</p>	<p>①20歳代のDV被害経験者の割合の減少 ②男女共同参画に関する市民意識調査 ③調査対象者に抽出された市民(20歳代)</p>

取組の評価④

凡例 ①指標名 ②確認方法 ③確認の対象

取組	活動指標	実績
<p>DV防止のための情報提供及び啓発(10～20歳代の社会人向け)</p>	<p>啓発配布物の配布数</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市民のひろばへのDV防止啓発記事掲載:全世帯(約26万世帯) ・カードサイズDVリーフレットの設置箇所:1,523施設(2013年度) ・パープルリボンキャンペーン街頭啓発活動:1000枚配布(2014年度)
成果指標(短期)	成果指標(中期)	成果指標(長期)
<ul style="list-style-type: none"> ①DVに対する市民の認識の変化 ②・事故やけがに関するアンケート調査 ・女性に対する暴力に関する講演会のアンケート ③市民全般(10～20歳代) 	<ul style="list-style-type: none"> ①DVの認識による態度や行動の変化 ②事故やけがに関するアンケート調査 ③調査対象者に抽出された市民(10～20歳代) 	<ul style="list-style-type: none"> ①DVは人権を侵害する行為であるという考えの浸透 ②男女共同参画に関する市民意識調査 ③調査対象者に抽出された市民(20歳代)

セーフコミュニティによる変化

- × 対策委員会ができたことにより、関わりの少なかった関係団体と繋がり、ナマの声を聞けたことで、今後のDV被害者支援活動を連携して取り組める雰囲気生まれた。
- × 官民の支援者の顔が繋がったことで、実際に実務での連携がスムーズになった。

さらにプレ審査後・・・

対策委員会所属団体が参加した街頭啓発活動や、市と民間団体の協働によるデートDV教育開催など、関係機関の協働によるDV防止対策が行われた。

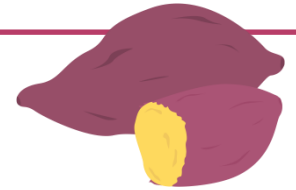
今後の展望

現状

- DV相談件数の増加や社会的なDV対策の必要性の認識

課題

- 潜在化しているDV被害者の掘り起こし
- DV被害実数の把握
- デートDV講演会等実施校の増への対応
- 相談員や相談者を対象としたアンケートの実施方法



展望

- 効果的な啓発活動や啓発物設置場所の検討
- DV被害認知件数の活用についての検討
- より多くの若年層(学生)にアプローチできる手段の検討
- アンケート調査実施にあたっての、実施方法や質問方法等の検討

評価指標をもとにした分析や議論の中でうまれたアイデアをもとに更なる予防に繋げる。



ご清聴
ありがとう
ございました。

みんなで作る セーフコミュニティ かごしま

